

自己評価結果公表シート

赤城育心こども園

2025 年 8 月 1 日

1. 本園の基本理念、基本方針、保育の目標

基本理念

◎聖書に記された「自分のように隣人を愛しなさい（Love your neighbor as you love yourself）」という隣人愛に基いた保育を行う。

◎乳幼児の最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。（保育理念）

基本方針

◎おこころも からだも ちえも たいせつに みんな なかよく

保育の目標

◎自分が、神様に愛されている大切な存在であることを知る。

◎命の大切さを知り、人に対する思いやりの心、優しい心をもつ。

◎自分に対する自信と豊かな感性をもち、何事にも意欲的に取り組む。

2. R6 年度の経営方針

○外部で先進的な取り組みをする施設の見学や、他施設との職員交流を積極的に進め、新たな視点で保育の質の向上を図る。

○園全体から見た時の各クラスの保育が、どのような成長段階にあり、どのような保育を行うべきなのかを改めて分析し、必要とされる保育を具体化し、実践する。

3. 総合的な評価結果

評価項目	取り組み状況
先進的な取り組みをする施設の見学。他施設との職員交流。	県外（福島、長野、埼玉県等）の先進的な保育を行う施設の見学を行い、保育室の環境設定の改革を行ったり、インカムによる職員の情報共有の強化を図ったりした。また、自主的な保育研究グループの活動を通し、情報交換を行ったり研究発表の場を設けたりするなどして、保育の質の向上を図った。
子どもたちの発達の分析や、必要とされる保育の具現化	これまで行ってきた自由保育による遊びを通した非認知能力の育成を再度検証し、次年度に向けて、さらに子どもたちが主体的な意思をもって、園生活を送れるような保育スタイルの変更への布石を打つことができた。

4. こども園の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・これまでの保育で大切にしてきたこと、残さなくてはならないことをしっかり引き継ぎながら、今の保育を客観的に評価することを職員主導で行うことができた。そこには、子どもたちにとって何が大切か、何が必要かといった視点がしっかりと映し出されている。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
新しい自由保育の確立	これまで以上に、子どもたちが遊びこむことによって、自己肯定感やコミュニケーション能力を高めていく保育の充実を図る。そのためには、職員間でしっかりとした議論の時間を確保し、それを実践につなげる中で PDCA サイクルをしっかりと回していく。
保育者の自己研鑽	専門職としての自覚をもち、さらなる自己研鑽を積むことを通して、自らの取り組みに自信をもって保育を実践する。
保護者への情報発信を通して、信頼関係を深め、さらには、地域ぐるみで共同養育を行えるような環境を作っていく。	おたよりや面談等を通し、園の考え方を発信するとともに、保護者が抱える不安等を共有していく。また、地域の子育て支援の核としての自覚を持ち、地域ぐるみの子育てを様々な機会を通して訴えていく。

6. 財務状況

経営コンサルタントとの毎月の経営分析や決算時の監事監査により適正な運営を確保している。